

5 バイオマスの利活用推進体制

本計画が有効に機能し、具体的かつ効率的に推進するためには、例えば、原料の収集・運搬、電気・熱の販売や自家利用、バイオマス製品である消化液散布及び再生敷料の利用においては酪農家や事業者等との協働・連携が不可欠です。また、大学や研究機関等との連携や国や北海道による財政を含む支援も、プロジェクトを実現し継続するためには必要であるなど、酪農家・事業者・町民・行政がお互いの役割を理解し、関係機関を含む各主体が協働して取り組む体制の構築が必要です。

そのため本計画では、本事業の主体者である本町が中心となって設立した「八雲町家畜ふん尿バイオマス事業推進協議会」で本プロジェクトを推進します。この協議会は地元農業の中心機関である「渡島農業改良普及センター渡島北部支所」及び「新函館農業協同組合八雲基幹支店」、農業共済制度により農業経営を守る「みなみ北海道農業共済組道南支所東部事業所」、有識者として本事業への情報提供を行う「帯広畜産大学」及び「北里大学獣医学部附属フィールドサイエンスセンター」、飼料開発や資材提供などで酪農業をサポートする「雪印種苗株式会社八雲営業所」によって構成されています。

なお、本計画の進捗管理、情報発信及び各種調整などは本町が行います。

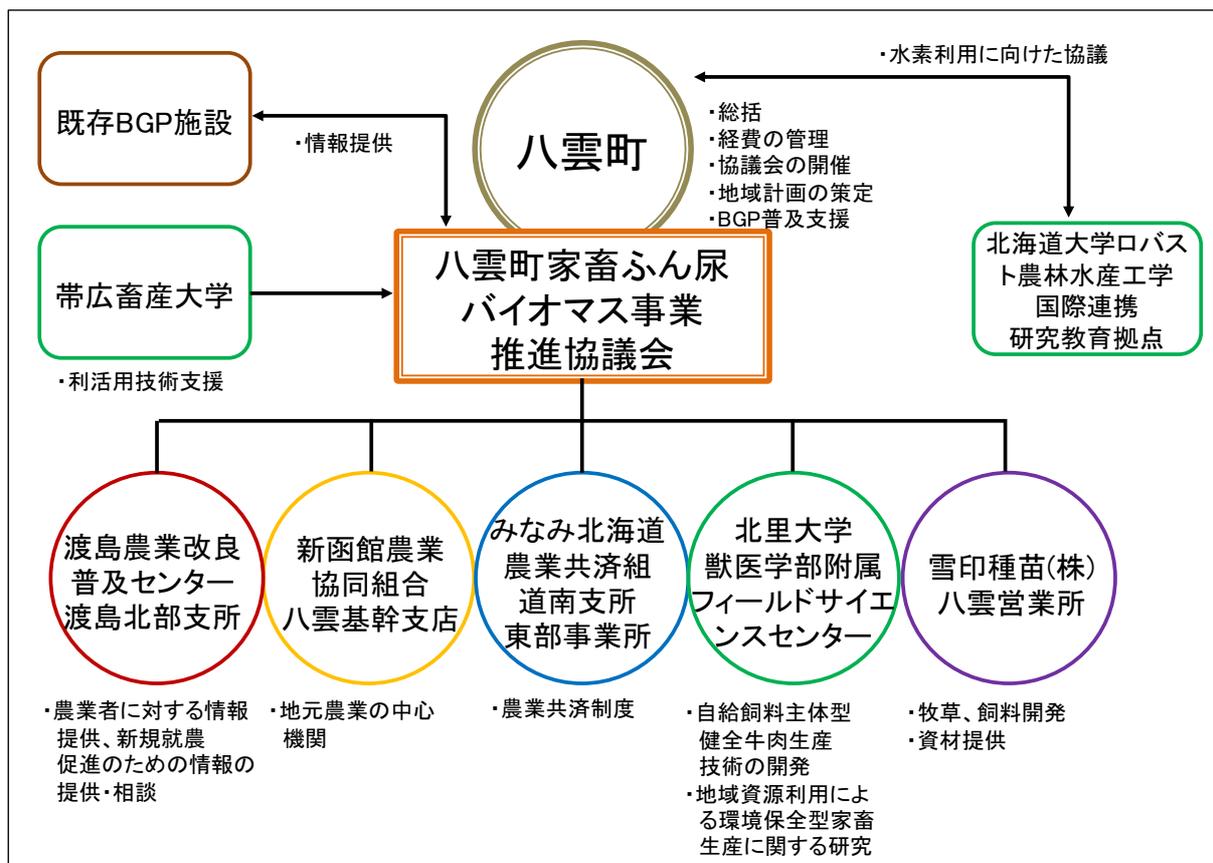


図 5-1 計画の推進体制

6 本計画の中間評価と事後評価

6.1 取組効果の客観的検証

本計画を実現するために実施する各事業化プロジェクトの進捗管理および取組効果の検証は、各プロジェクトの実行計画に基づき事業者が主体となって5年ごとに実施します。

具体的には、計画の策定から5年間が経過した時点で、バイオマスの利用量・利用率及び具体的な取組内容の経年的な動向や進捗状況を把握し、必要に応じて目標や取組内容を見直す「中間評価」を行います。

また、計画期間の最終年度(令和10年度)においては、バイオマスの利用量・利用率及び具体的な取組内容の進捗状況、本計画の取組効果の指標について把握し、事後評価時点の計画の進捗状況や取組の効果を評価します。

本計画の実効性は、PDCAサイクルに基づく環境マネジメントシステムの手法を用いて継続して実施することにより効果の検証と課題への対策を行い、実効性を高めていきます。また効果の検証結果を踏まえ、必要に応じて計画の見直しを行います。

なお、中間評価並びに事後評価については、「八雲町家畜ふん尿バイオマス事業推進協議会」で共有し、必要に応じて町内の既存BGP施設及び「北海道大学ロバスト農林水産工学国際連携研究拠点」の協力のもと実施します。これによりフォローアップが事業の向上につながるような仕組みづくりを行います。

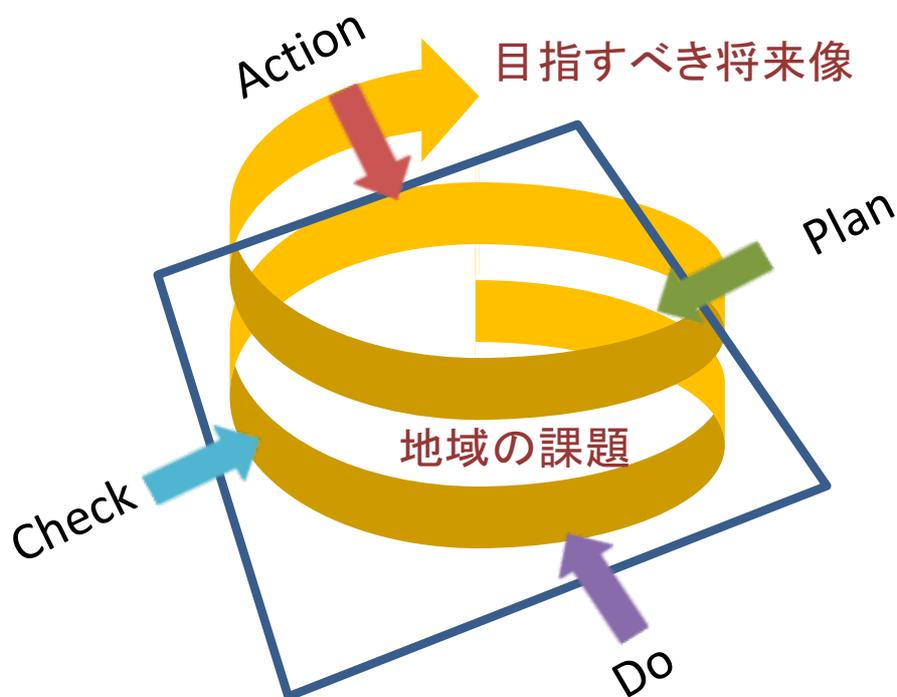


図 6-1 PDCA サイクルによる進捗管理及び取組効果の検証

6.2 中間評価

計画期間の中間年となる令和5(2023)年度に実施します。

1) バイオマスの種類別利用状況

3.1 項の表で整理したバイオマスの種類ごとに、5年経過時点での賦存量、利用量、利用率を整理します。

これらの数値は、BGP施設における家畜ふん尿の受入量実績値、酪農家への聞き取り調査、各種統計資料等を利用して算定します。

なお、できる限り全ての数値を毎年更新するように努めるとともに、把握方法についても継続的に検証し、より正確な数値の把握、検証に努めます。

2) 取組の進捗状況

4.2 項の取組工程に基づいて、2つの重点施策ごとに取組の進捗状況を確認します。利用量が少ない、進捗が遅れている等の場合は、原因や課題を整理します。

3) 計画見直しの必要性

進捗状況の確認で抽出された原因や課題に基づいて、必要に応じて目標や取組内容を見直します。

① 課題への対応

各取組における課題への対応方針を整理します。

② 計画見直しの必要性

①の結果を基に、八雲町バイオマス産業都市構想や各施策(プロジェクト)の実行計画の見直しの必要性について検討します。

4) 計画の実行

目標や計画を見直した場合を含めて、その達成に向けた取組を実施します。

6.3 事後評価

計画期間が終了する令和 10 年度を目途に、計画期間終了時点における「バイオマスの種類別利用状況」「取組の進捗状況」に加えて、以下の項目等について実施します。

1) 指標の設定

バイオマスの利用量・利用率以外に、本町の取組の効果を評価・検証する指標により効果を測定します。

評価指標は 6.1 項の例を参考にして設定します。

2) 改善措置等の必要性

進捗状況の確認や評価指標による効果測定等により抽出された各取組の原因や課題について、改善措置等の必要性を検討・整理します。

3) 総合評価

計画期間全体の達成状況について総合評価を行います。

前項で検討・整理した改善措置等の必要性や社会情勢の変化等を踏まえ、計画期間終了後の目標達成の見通しについて検討・整理します。

「八雲町家畜ふん尿バイオマス事業推進協議会」で上記内容を共有し、次期計画策定に向けた課題整理や今後有効な取組について助言を得て検討を行います。